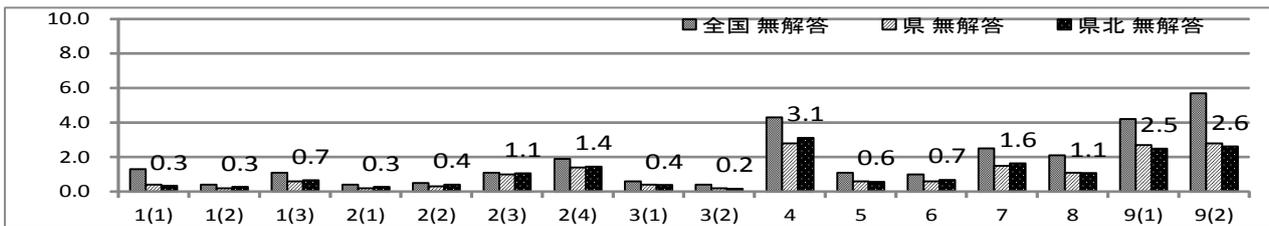
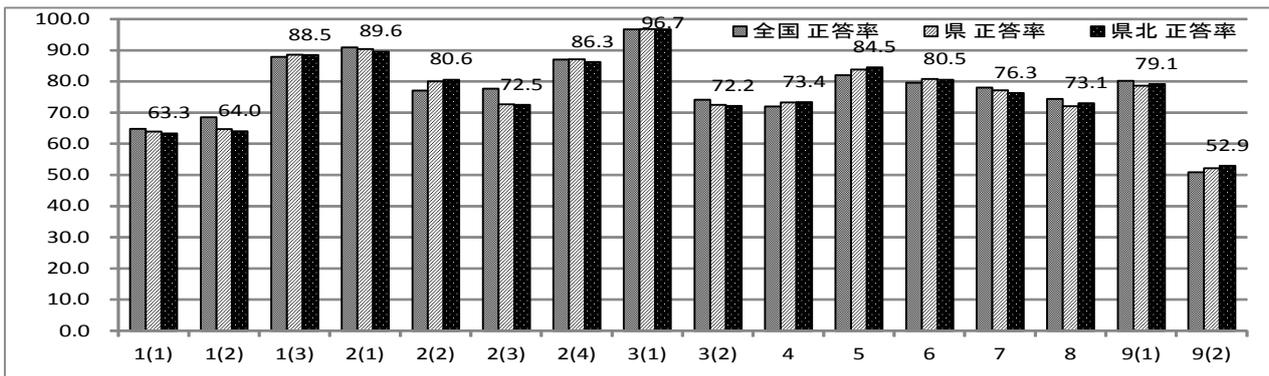


平成28年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かすために

算数（小学校）

県北教育事務所

[小学校算数A] ※ 各設問ごとの正答率・無解答率（値は県北地区）



【結果】

- 整数のひき算や分数の約分の計算の技能が身に付いてきている。[2](1)(4)
- 三角形の面積公式について理解しており、底辺と高さの関係を捉えることができている。[5]
- 小数のわり算について、除数がより小さいとき被除数と商との大小関係の理解が十分でなく、計算の技能にもやや課題がある。1(2), [2](3)
- 日常生活の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさをもとして、合理的かつ適切な判断をすることに課題がある。[8], [9](2)

平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※()は報告書ページ

設問1では、除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解しているかみる問題である。全国、県、県北とも64%程度の正答率であるが、商が被除数より小さいという誤答が県北域内では32%と、やや高めである。(P24)

設問	1 (正答)	2	3
全国	65.0	29.2	4.3
県	63.9	31.5	4.1
県北	63.3	32.3	4.0

設問[8]では全体の大きさに対する、部分の大きさを表す割合が一番大きいものを選ぶ問題である。県北域内の正答率は73.1%であるが、単純に赤の部分の大きい選択肢の4を選ぶ誤答が16%以上であることに注目しなければならない。(P55)

設問	1	2 (正答)	3	4
全国	5.4	74.5	1.9	16.1
県	6.8	72.1	2.8	17.1
県北	6.7	73.1	2.8	16.4

～ 弱点を改善する指導 ～

計算の結果の見積もりや確かめの習慣を身につけるようにする。

【改善策】

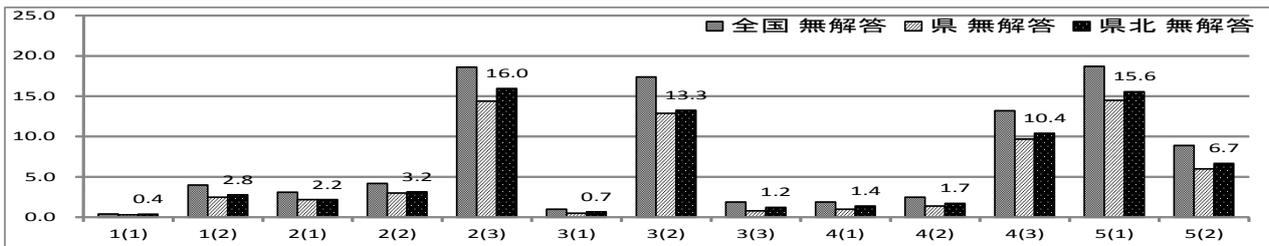
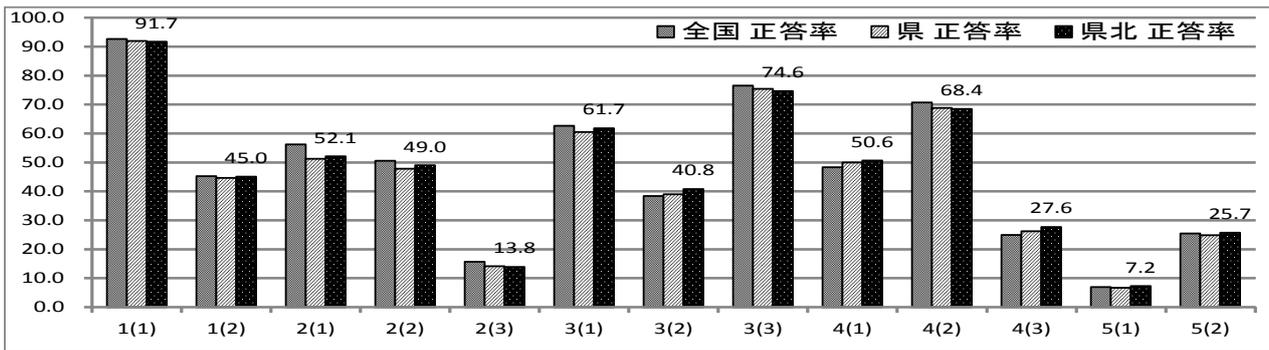
- ・ 目的に応じて計算の結果の見積もりをする場を位置づけながら、計算に取り組む指導をする。
- ・ 課題となる事象に関連づけて、単位や解答の範囲を意識付けしながら計算に取り組ませる。

割合を二つの量の関係として捉えるとともに、割合の大きさがおよそどの程度であるかを捉えることができようにする。

【改善策】

- ・ 割合のおよその大きさを見積もる場面を設定する。※求める前におよその見積もりを確認する。
- ・ 割合は基準量と比較量の関係であることをおさえながら、百分率や分数などで表す活動を行う。

[小学校算数 B] ※ 各設問ごとの正答率・無解答率 (値は県北地区)



【結果】

- 問題場面からきまりを読み取り、他の正方形でも同じきまりを適用することができる。1
- 正方形に内接する円をコンパスで作図するとき、円の半径を正しくとることができる。3
- 全体的に無解答率は全国の数値を下回っており、「表現」の指導の成果が現れてきている。
- グラフから貸出冊数を読み取り、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて説明することに課題がある。[4](3)
- ハードル走の目標タイムを設定する式の構成を理解し、その意味を他の数値と関連づけて説明することは、無解答率が高く課題がある。[2](3)
- 注目する角の大きさを理解し、式を題意に沿って解釈し説明することに課題がある。[5](1)(2)

平成28年度全国学力・学習状況調査 報告書の解答類型

※()は報告書ページ

設問[2](3)はハードル走の目標タイムを計算する式の中の0.4や0.3の意味を記述する問題である。正答は解答類型1, 2であるが、「増える時間」であると答えている類型3の誤答が県北で33%程度あることに着目すれば、解答の正確さが十分ではないといえる。(P76)

	1 (正)	2 (正)	3	4	5	6	9
全国	15.7	0.0	35.4	1.9	0.4	4.9	23.1
県	14.1	0.0	33.8	2.6	0.6	6.6	28.0
県北	13.8	0.0	32.4	2.9	0.7	6.7	27.5

設問[5](2)は図形を形成する角の大きさを基に、並べてつくられる図を判断できるかみる問題である。直角が2つ並んで180度になることから、頂点の数が6つとなり正六角形になるのだが、図形の形状に影響され解答類型1と2を選ぶ誤答が合わせて50%程度ある。選択した図形について、角度を基に検証をする力が十分ではないといえる。(P95)

	1	2	3 (正)	4
全国	11.1	39.0	25.4	15.5
県	10.9	42.4	24.8	15.7
県北	10.1	41.2	25.7	16.2

～ 弱点を改善する指導 ～

日常生活の中で用いられる式について、演算の意味や数値の意味を考えられるようにする。

【改善策】

- ・ 事象から数値を取り出し、立式するだけでなく、数値の意味や演算によって導かれる数値がどのような値を表しているのかを、友達と説明し合う場を設定していく。設問[2](3)では、0.4や0.3の意味を考えたり、0.5にすることはどのような意味があるのか、0.4×ハードルの数は何を表しているのかなどを、お互いに説明し合うことで理解が深まっていく。

図形の構成を通して、図形についての理解を深めるようにする。

【改善策】

- ・ 作図や構成した図形の特徴について、図に長さや角の大きさを書き込み、性質や特徴について自分の考えの妥当性を検証したり、根拠をもとに話し合うことが考えられる。
- ・ 立体図形については、垂直や平行の位置関係を具体物のみならず、身の回りの生活の中にあるものと関連付けて指導する。